

## 五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2021年1月15日

### What is New in 2021

先週から引き続き米国のワクチン接種の情報です。

2020年12月中に2000万人に対して接種を行う予定でしたが、実際の接種の進捗に出遅れが出たため、店舗内に薬局を構える Food and Drug スタイルのスーパーマーケットチェーンや Walgreen, CVS, Rite Aid などのドラッグストアチェーンの協力を得て、当初予定していた接種の順番制度をある程度柔軟に緩和し、最前線の労働者のみならず一般の人々へもワクチンを接種する運びとなりました。

年明け後、中西部で約250店を持つ Hy-Vee と中西部テキサス州中心に約400店舗を展開している H.E.B グローサリーチェーンもワクチン提供する食品小売業者の仲間入りをし、モデルナ社製のワクチンを配布し始めました。

H-E-B は既にワクチンの追加割り当てを要求していると述べています。

スーパーマーケットチェーントップで店舗の8割強に薬局部門を付随する Kroger は、コミュニティセンターやスタジアムで大規模なイベントを開催し、一度に600~800人に予防接種を行う方法を模索していると語っています。

1月11日にカリフォルニア州オレンジ郡にあるディズニーランドやカリフォルニアアドベンチャーなどのエンターテインメント施設を含むディズニーリゾートとロスアンゼルス市内のドジャース球場でもワクチンの接種場として使用することが発表されました。

Kroger は、彼らを含む国内最大のグローサリー店が本格的に接種をスタートすれば、一日でかなり多くの人々に予防接種が可能だと付け加えています。



CNN ニュースで、Amazon が主要な事業を展開しているシアトル、ナッシュビル、そしてバージニア州アーリントンの3つの都市で、低所得層から中間層に対し手頃な価格の住宅を提供するべく今後5年間で20億ドル（約2000億円）を投資する発表を報じました。

同社の創設者兼最高経営責任者であるジェフ・ベゾス氏は「この新しい20億ドルの住宅投資金は、アーリントン、ピュージェット湾、ナッシュビルにある3つ地域すべてで2万戸の手頃な価格の住宅を提供し、地元の家族が強力なコミュニティを構築しながら、長期的にそこで暮らす人々に“住居費用に関しての安心と安定”を提供します。」と語っています。

Amazon を始めとする米国のIT企業では高額な賃金を所得する従業員が多いため、各都市に彼らの本部ビルが出来る都度、周辺の不動産の価値、価格を釣り上げてきているとの批判を受けています。

カリフォルニア州北部のシリコンバレーや通勤拠点の町であるサンフランシスコで近年に起きた異常な住宅、家賃高騰は良い例です。

このAmazonの新しいアプローチは、3つの地域の平均収入の30%から80%を占める世帯向けの住宅を対象とし、彼らを支援するように設計されていると述べています。

また20億ドルの投資とは別にマイノリティの人々が住宅購入時のローンに必要な助成金と交通機関や学区の整備、構築などの公的機関へ1億2500万ドル（約125億円）が加算される予定です。

ハイテク企業が進出してきた都市では、パンデミックで最前線に立って活躍している医療従事者、教師、交通機関の労働者などの中間所得層の人々が、家賃の高騰によって都心で暮らし難くなっています。

手頃な価格だったアパートに暮らしていた住人が、家賃の値上げに耐えかねてやむなく引っ越しするのを機に、持ち主である会社やオーナーが豪華にリノベーションを施して高い家賃で再度、貸し出すというビジネスが今まで繰り返されてきました。

今回Amazonが行う投資は、既存の建物を保護し、適度な家賃水準を維持する為に行われます。

また、弱い立場にある人々をも含め市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、地域社会の一員として取り込み、支え合うという経済的包摂を促進し、中間所得および低所得の家族の安定と経済的流動性のサポートに取り組む地元にとって重要な投資となります。

驚くことにAmazonは今回のプロジェクトから一切の利益を得ることを考慮していないと語っています。

夢のマイホームで、人々の多くはAmazonに対する恩義を感じ、中には年間\$130支払うAmazon Primeのメンバーとなって、結果的には利益を還元していくのではないのでしょうか？



このように成功している企業が利益を社会に還元する動きが広がって行けば、本来の意味での SDGs な社会が構築されていくと思います。企業が社会や地域のために投資を行い、社会全体が安定して暮らしやすくなれば、それに越したことはありません。

一方で感染者に歯止めが利かない現在の米国を安定させるためには、ワクチン接種のスピードアップがスムーズに進むことが先決です。

同時に Food & Drug を含むグロサリー店やドラッグストアチェーンは、一度ワクチン接種した人々は 2 回目の接種のために、再び店舗に足を運んでくれます。一回目の接種後に、次回に店舗で使用できる割引クーポンを配布するなど、このタイミングを逃さずついで買いのビジネスチャンスも狙う戦略を始めるでしょう。

そのニュースはまた逐次アップデート致します。